

副会長就任のご挨拶



田中 俊治

先日、ある飲食店に入ると、今日は16日なので〇〇の日です。〇〇が1皿無料となりますと掲示されていました。もちろん喜んで1皿無料でいただきました。語呂合わせで作った記念日です。

すね。例えば2月9日は下関フク連盟が制定したフグの日であり、3月8日は全日本はちみつ協同組合と日本養蜂はちみつ協会が制定したミツバチの日です。

私たちが属する日本栄養士会も栄養の日を作るという動きがあります。語呂合わせでいくと何月何日になるでしょうか。この記念日ができましたら、ぜひ盛り上げて世間に広め、社会に栄養士会の必要性を浸透させたいものです。

記念日と同様に、ロゴマークも社会への認知に役立つものです。ロゴマークとは企業やブランドのイメージを印象づけるようにロゴタイプやマークを組み合わせて図案化したものと大辞林に載っています。つまり見た人が、本会のイメージを印象的に受け取れるものでなくてはなりません。今、ロゴマークを作成中です。会員から提案いただいた作品の中の最優秀作品をベースに作っているところです。ご期待ください。

よく似たものに、ゆるいマスコットキャラクターいわゆる「ゆるキャラ」というものがあります。

ゆるキャラには、原則として、郷土愛に満ち溢れた強いメッセージ性があることが挙げられています。広義では企業のキャラクターもゆるキャラに含まれていますので、本会もゆるキャラを持つことができます。ナイフとフォークを持ったゆるキャラでしょうか、それとも経腸栄養剤と経鼻チューブを持ったゆるキャラでしょうか。最も、今のところは計画にも挙がっておりませんが。

さて、5月28日（土）の総会で、本会の副会長を引き続きお引き受けすることとなりました。会員の皆様のご支援をいただきながら、藤原会長を補佐し、当会の一層の発展に尽力してまいります。

私たち管理栄養士・栄養士に求められる知識やスキルは社会や時代のニーズの変化によって変わってきます。そのようなニーズの変化に対応していくには、組織の力が必要となります。常に社会の時代の変化をウォッチし続け、大阪府栄養士会という組織を大きく育てていくことに全力を尽くしたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。



羽多野 宏子

昨年度（公社）大阪府栄養士会は公益事業として、①大阪府の受託事業、在宅療養における栄養ケア事業と、②平成27年度大阪版健康・栄養調査の

実施を行ないました。①の事業は8圏域で各職域リーダー3人を養成、7月から10月にかけて実施。多職種含めて修了者418名（内管理栄養士267名）の人材育成を図ることが出来ました。今後の2年間は継続の予定事業です。

②の事業は大阪府内の政令市、中核市の29地区885世帯（2000人）の方を訪問調査し、11月から3月にかけて実施しました。結果は今年度報告予定です。会員のみなさまのご協力に感謝いたします。

2025年「地域包括ケアシステム」を推進する国の施策の中で、病院、福祉施設など、固定した職域の中で仕事をする時代は変化し、施設から在宅へとシフト、地域全体での支えが必要とされています。地域医療構想、例えば私の勤務する医療療養型病院は『ずっと入院できる病院』のイメージから『ときどき入院、ほぼ在宅』という地域包括ケアのコンセプトに基づき、必要なとき必要な期間入院を提供し、患者を治し支える医療を提供する役割に変わりつつあります。平成30年の医療保険、介護保険同時改定にむけて、それぞれの病院の役割に応じて体制を整えていくことが、重要といえます。

管理栄養士・栄養士は情報社会の先読みができること、他職種との連携共同が必須です。（公益）日本栄養士会の将来構想にありますように、「栄養の指導」を通して、ひとりひとりが食・栄養の専門家として自己研鑽し、社会に国民に必要な職業として認められなければなりません。終わりに、（公益）日本栄養士会の全国理事を2期務めさせていただきましたが、今後は大阪で強い組織づくりと会員対話を目標に努力して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

副会長就任のご挨拶



西村 智子

この度副会長の重責を担わせて頂くことになり、身の引き締まる思いであります。近年“栄養”という言葉や文字は広く一般に使われており、低栄養、サプリメント、サルコペニアなど栄養に結び付く言葉がたくさんあふれてきましたが必ずしも栄養士がその言葉の中に存在しているとは限りません。栄養士はチーム医療の一員として医療や福祉（施設、在宅、地域）などで栄養の必要性を掲げてたくさんの職種の方の協力をいただき、少しずつ認知されてきましたが、栄養は栄養士の独占の言葉ではないため、ほかの職種の方、言い換えれば誰でも栄養の知識があれば対象の方に相談（指導）が実施できることも事実であります。

去年度から大阪府栄養士会では大阪府からの受託事業で会員に在宅栄養ケアができる管理栄養士を養成する研修会を実施しております。研修会を実施していくにつれ、多くの職種に認知はされてきたものの、栄養士が実際の現場にたどり着くまでにたくさんの高いハードルがあることもわかってきました。栄養士が栄養相談を有料で実施するためには医療機関の職員（非常勤可）であり医師の指示箋が必要であること、在宅の対象者に殆ど認知されていないため実際には依頼が殆どないことなど問題が山積しております。それに伴い大阪府栄養士会では無料職業紹介所を設立し、他団体のご支援も頂きながら在宅栄養ケアを有料で会員の生業とできるよう努力していくことになりました。栄養が大事、栄養素が大事、栄養管理が大事など、たくさんの学会や団体が栄養の必要性を発表していますが、管理栄養士・栄養士が大事、管理栄養士・栄養士のために業務独占や地位向上などを考え実施している職能団体は栄養士会だけなのです。他の職能団体も会員数の力で診療報酬のUPなどを実現させています。栄養士も数の力で一つずつ確実に実現させていきませんか。これからも会員の皆様のお力、お知恵を拝借しながら、唯一たった一つの管理栄養士・栄養士のための職能団体である栄養士会を発展させていきたいと思っています。何卒ご理解ご協力の程、よろしくお願いいたします。

専務理事就任のご挨拶



前田 浩史

私は大阪府の北摂に生まれました。学校の裏には低い山があり、その山全体は窯跡の宝庫で、壺を焼いた登り窯や、平安京の瓦を焼いた窯跡が子供のころの遊び場でした。

そして山の上から遠くを望むと、大阪城が2センチぐらいの大きさで見えました。幽か遠くに小さく見える「太閤はんのお城」は過ぎ行く時のなかで、何時も私の心をどれだけ勇気づけてくれたことでしょう。

さて大阪府栄養士会はその大阪城近くに位置し、事務局職員や理事の方々が、事業運営の指令塔として、遅くまで働いておられます。運営の一例を紹介しますと、会員や賛助会員からの問い合わせの対応、機関紙の準備作成、各部会研修運営や生涯教育の企画運営、府民に還元をもたらせる栄養相談や対社会活動、在宅栄養ケアの実施に向けた準備等々ですが、中身はとてもボリュームが多く、大変な労力を必要とします。この様々な事業の運営で一息ついたとき、我々はお堀の向こうのお城の姿に癒されます。また栄養士会に、藤原会長という「太閤はん」がおられる限り我々は安心して業務が遂行できそうです。尚、会員の皆様方のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

いま私が勤める職場の研究室の目の前には深緑と石垣のお堀があります。そしてその先には大阪城が存在感を見せつけてくれます。昔に比べ、周りには「何処まで伸びるのかい」と聞きたくなるような高層ビルが林立し、大阪城を見下ろすようにそびえております。しかし、お城は昔も今も時代に振り回されることなく、朝は朝陽とともに輝き、昼は青空と雲の流れに治まり、夕は夕陽に赤く染め、夜は窓からこぼれる灯りが白壁を照らし、何時も威風堂々と存在を示しています。

われわれ大阪の管理栄養士・栄養士も、これから、様々な境遇に置かれることがあるかもしれませんが、どんな時でも大阪城に見守られながら、腰を据えて存在する大阪府栄養士会がある限り会員の皆様の拠り所となり続けることでしょう。